

Gordon Matta-Clark の空間の捉え方についての研究

— 残された作品を活用した分析を通して —

日大生産工(院) ○木村 さくら 日大生産工 篠崎 健一

1. 研究の背景

ゴードン・マッタ＝クラーク (Gordon Matta-Clark 1943-1978) は、1970年代にニューヨークを中心に活動した芸術家である。ニューヨーク州北部にあるコーネル大学建築学部を1968年に卒業したのち、故郷のニューヨーク市に戻って、パフォーマンスや映像作品、写真作品、レストラン経営など、サイト・スペシフィックな性質を持つ作品制作や活動を数多く行って来た。中でも、彼は建物の床や壁を切り取る大規模な作品によって知られている。例えば、1974年にニュージャージー州の町イングルウッドの一軒家に垂直の隙間を切り開いた《分裂 (Splitting)》、1975年にマンハッタンのハドソン川沿いの使われなくなった倉庫で、主に西側の壁を切り抜いた《日の終わり (Day's End)》、同じ75年にパリの再開発地区で、とり壊される直前の石造の住宅を円錐形の空隙によって貫いた《円錐の交差 (Conical Intersect)》などである。しかし、彼の活動や作品は、一時的にしか存在しなかったものが多く、今日の鑑賞者にとって、マッタ＝クラークの建物作品の空間は体験をすることが不可能である。それらの作品を現在までに伝えるものは、彫刻、写真、映像、素描、建物断片／オブジェ、文章などのドキュメンテーションに限られている。



Fig. 1 Gordon Matta-Clark

1943 ニューヨークで生まれる
父はロベルト・マッタ
1962-1968 コーネル大学建築学科
1963 ソルボンヌ大学で仏文学を学ぶ
1969 「Earth Art」展参加
1973 「Anarchitecture」グループ結成
1978 膀胱がんのため死去

Fig. 2 Gordon Matta-Clark 年表



Fig. 3 《Splitting》



Fig. 4 《Day's End》



Fig. 5 《Conical Intersect》

2. 既往研究と本研究の位置付け

マッタ＝クラークに関する数多い研究に対して、彼の制作活動における、写真、映像、素描、建物断片／オブジェ、文章などの作品を横断的に分析する。建物作品に留まらず、写真作品などのような異なる表現媒体を多用することで、マッタ＝クラークの思想に通底する建築と都市への視座を洞察し、彼が実現した空間をより総合的に評価することが本研究の目的である。

3. 作品分析

マッタ＝クラークが制作活動を行っていた1969年から1978にかけての作品143点を分析対象とする。これらの作品を写真、映像、素描、建物断片／オブジェ、記録／印刷物／書籍に分類し、年別に分けたマトリックスを作成し、作品分類と年代の比較考察をする。

	プリント(写真)	映像	素描	建物断片/オブジェ	記録/印刷物/書籍など
1969					
1970					
1971					
1972					
1973					
1974					
1975					
1976					
1977					
1978					

Fig. 6 作成した作品分類と年別の比較マトリックス

4. 結果と考察

比較マトリックスを作成した結果、写真作品が61点、映像作品が20点、素描作品が29点、建物断片／オブジェ作品は4点、記録／印刷物／

The Spatial Perception of Gordon Matta-Clark

— Through Analyzing the Utilization of Remaining Works of Gordon Matta-Clark —

Sakura Kimura and Kenichi SHINOZAKI

書籍作品は29点に分類することができる。総合的に作品数が最も多い年代も1977年である。また、最も多く制作された作品分類は写真作品である。その中で写真作品が最も多く制作された年は1977年と1973年である。映像作品が最も作成された年は1971年であり、建物断片／オブジェ作品が最も作成された年は1970年である。また、素描作品と記録／印刷物／書籍作品が最も制作された年が1977年である。

分析した結果から、マッタ＝クラークは、活動し始めた頃の1969年から1971年までは、主に映像作品や建物断片／オブジェ作品を中心に、彼が創造した空間を伝えていたことに対し、1972年以降は写真作品を中心に伝えていた傾向がある。

5. 今後の展望

現状は作品における収集・分析であり、さらに細く作品を分類し、作品分類と年の関係を明らかにしていきたい。特に、写真作品の分類を行うことで、写真作品と建物作品の関係を明らかにしていきたい。また、作品が制作された場所を、作品分類や年と比較分析を行い、彼が実現した空間の捉え方を考察していきたい。

参考文献

- 1) Mark Wigley. Cutting Matta-Clark: The Anarchitecture Investigation. Lars Mueller. 2018
- 2) 東京国立近代美術館 編. 東京国立近代美術館「ゴードンマッタ＝クラーク展」図録. 東京国立近代美術館. 2018
- 3) Pamela M Lee (2017). Object to be Destroyed – The Work of Gordon Matta-Clark School of Architecture The University of Sheffield
- 4) 平野千枝子 (2018). ゴードン・マッタ＝クラーク空間の中の変容 *Gordon Matta-Clark Mutation in Space*. 242-255
- 5) 小林恵吾・中村竜太 (2019). Gordon Matta-Clark の空間の捉え方に関する研究-〈Building Cut〉の写真作品と3次元モデルを活用した分析を通して- 日本建築学会大会学術講演梗概集. 249-250